

第3回仙台城跡調査・整備委員会

- I. 開催日時 令和元年11月11日(月)10時00分～12時00分
- II. 開催場所 市役所上杉分庁舎12階第1会議室
- III. 出席者 (委員) 藤澤 敦・奥村聡子・籠橋 俊光・佐浦 みどり
佐々木 貴弘・永井 康雄・深澤 百合子
北野 博司(欠席)・鈴木 未来(欠席)
(宮城県) 佐藤 憲幸(教育庁文化財課 技術補佐)
(事務局) 【教育局】
生涯学習部長 佐藤 ゆうこ
文化財課長 長島 栄一
仙台城史跡調査室長 鈴木 隆
主任 関根 章義
主事 佐藤 恵理
主事 須貝 慎吾
文化財教諭 加藤 智仁
専門員 工藤 哲司
- 【建設局公園課】
公園整備担当課長 鈴木 江美子
青葉山公園整備室長 川崎 剛
主任 佐藤 詩織
- 【文化観光局観光課】
賑わい創出係長 三浦 貴之
- (報道機関) (1社)
- IV. 傍聴人 0名

※会議録の署名について委員長は佐浦委員を指名

1 開会

2 委員紹介

- ・奥村委員による自己紹介

3 議事

【報告】

1. 仙台城跡の発掘調査について

資料1に基づき事務局より説明

(質疑応答)

- 永井委員 事務局 資料1-3に掲載されている絵図との対応について分かることはあるのか。
- 事務局 絵図でも巽門から清水門に向かって石垣が伸びているので、元々あった可能性はある。また、造酒屋敷の入口が書かれた地図もあるので、その可能性もあるが、未だ検討段階のため、そのような可能性もある、といった段階である。
- 委員長 事務局 石垣は19世紀以降というだけで、江戸時代なのか明治時代なのか決めきれなかったということか。
- 事務局 背面調査も実施したところ瓦が出土している。このことから江戸時代の中で修復している可能性は高いが、石垣が構築された層からは判断できず、石垣の積み方など他の類例を比較しながら検討していく。
- 深澤委員 事務局 1区と2区の集石の状況は似ているのか。
- 事務局 含まれている石の大きさが異なるため、状況としては異なる。
- 深澤委員 事務局 2区の集石について、深くなっているのか、平らな面に広がっているのかや、集石を除くと土坑やピットがあるのかななどの確認は。
- 事務局 今回の調査期間や日程の問題で確認しきれなかったが、集石内の風倒木と考えられる落ち込みを精査すると下のほうまで石が固まっていて、これがある程度広がっているのが確認された。大きな穴状のものに瓦や石を入れた可能性があると考えている。
- 委員長 事務局 資料1-6(4)の目次案に関する説明は。
- 事務局 昨年度まで行っていた造酒屋敷跡の調査の総括報告書を作成している。進捗状況は、現在文献の収集を行っており、特に政宗関係の文書を探している。まとめて今年度末に刊行予定。
- 籠橋委員 事務局 資料1-1③の集石遺構はどのような想定をしているのか。ここで出ているだけなのか。
- 事務局 類似する例だと、礎石の根固めの可能性もある。一定の間隔で検出すればここに何らかの建物があったと想定できるが、巽門が築城当初からの建物だとするとかなり近い位置に建物があることになる。周辺の調査も含めて考えていかなくてはならない。

籠橋委員 石垣の角のところから入っていくとなると、ただの建物かということも。
事務局 門の可能性も想定している。しかし、この場所でしか検出していないため、そ
ういった可能性も含めて調査していく。

2. 仙台城跡の活用事業について

資料 2 に基づいて事務局より説明

(質疑応答)

佐浦委員 市政出前講座等の受付はホームページで行っているのか。
事務局 ホームページや電話などでも受け入れている。広報課を通しての依頼もある。
委員長 校外学習で仙台城跡を訪れる件数というのは何校くらいあるのか。
事務局 平成 28 年度には 3 件だったが、ここ数年は 9 件ほどに増加している。学校単
位だけでなく、自主研修等少人数での利用にも対応している。

永井委員 石垣クリーン大作戦ほどのくらいの頻度で計画しているのか。
事務局 今年度始めたばかりなのでこれから精査していかなくてはならないが、対象
とする石垣も考慮しながら年 1 回を目途に考えている。アンケート結果から、
多くの方がまた参加したいとのことなので、毎年継続していきたい。

永井委員 石垣の崩れなどの早期発見にも役立つ。広報にも繋がるし、市民の方々の興
味も深くなっていくと思う。
事務局 尚綱大学の馬場先生の教え子の方にも参加してもらった。また、仙台城跡か
ら新しい情報を発信することで魅力を感じてもらうために調査成果を宮城県考
古学会等で発表する機会を持つようにしている。

奥村委員 市民の方だけではなく、観光客に対して行っていることはあるのか。
事務局 仙台城跡のガイドボランティア会の支援やレクチャーなどボランティア団体
の育成に取り組んでいる。

奥村委員 広報はどのような形で行っているのか。
事務局 市政だよりに掲載して各種募集をしたり、遺跡見学会では、報道発表をし
たりしている。

委員長 先ほどあった石垣のイベントの広報も市政だよりでしたのか。
事務局 市政だよりだけではなく、ホームページ等でも募集をかけた。
委員長 コンピュータで見るホームページは大変で見てくれない。スマホのほうが
アクセスが良い。以前のように自宅で調べてからというより出先で動きながら
調べるというスタイルに変わってきている。そういうものにも対応できるよう
検討していただきたい。

佐浦委員 職場体験の受け入れは将来関わっていく世代を繋ぐためにも非常に大事であ
る。これからの人たちに体験など身体で感じてもらうことも大切なのもっと
積極的に増やしていけるとよい。
事務局 仙台城だけではなく、ほかの複数個所の施設でも職場体験を受け入れている。

3. 青葉山公園(仮称)公園センターの整備状況について

資料3に基づき担当課(建設局公園課)および事務局より説明

(質疑応答)

- 佐々木委員 質問として3点。1点目が、公園センターの完成年度などの整備スケジュールはどのようになっているのか。2点目が、桜テラスの下は木のデッキかと想定しているかと思うが、木のデッキの場合、そんなに年数が持たない。中～長期的にどのように更新していくのか。3点目は、桜の小径(こみち)は国際センター側にすでに整備しているのか。以上の3点について教えてほしい。
- 公園課 整備スケジュールについては、現在建物の実施設計を行っている。予定では来年発注し、10月くらいから工事着手する。建築工事に約1年半。令和3年度末には建物が完成する見込みである。その後、オープンに向けて運営管理の準備や内装の工事などがある。今のところ令和4年度中にはオープンしたい。2点目のウッドデッキについては、経済性や維持管理の面からインターロッキング舗装のようなものを検討している。3点目の国際センター側の桜の小径についてはすでに整備は終わっている。桜もまだ大きくなっていないが新規に植えたものもある。
- 佐々木委員 桜の小径(こみち)を繋ぐ横断歩道はあるのか。
- 公園課 桜の小径(こみち)は大橋を隔てて北と南にあり、連続できない状況にある。国際センター正面入り口にある信号との距離の関係でここを渡ることができない。
- 深澤委員 この一連の施設は盛土の上に建てることになり、道路部分との段差が生じるが結構登った形で施設に入ることになるのか。
- 公園課 西側に生じる段差は階段やスロープで解消する。
- 深澤委員 広瀬川側にもスロープがつく形になるのか。
- 公園課 広場自体は建物から現況に擦りつくような形で傾斜をつける高さ計画となっている。
- 深澤委員 ここは広瀬川のほitoriでもある。広瀬川についての森と杜という話が出たが、広瀬川にも鮭が遡上するというのも市民の方々に周知することで楽しんでもらえるのではないかと。
- 永井委員 仙台城の入り口であるという点と、歴史的な点でも非常に重要な場所にあたることから景観が大事になる。完成予想図の下の二枚を見ると近世のにおいが全くしなくなる。屋根の勾配や高さ等もう少し考慮してもらいたい。
- 公園課 様々なご意見をいただいているところだが、入り口部分の屋根のデザインを若干山型にすることで柔らかい感じが出るように計画している。
- 永井委員 建築史から見ていくと、近世の建物はもっと屋根の勾配があつて大きいのが

特徴。

公園課

建物については設計しているJVのなかに歴史専門の会社も入っている。家臣の屋敷があった場所というところから屋根にボリュームを持たせないほうがふさわしいのではということと、盛土の上に建設するため、屋根に重さがかからないほうが良いということ、あくまでも武家屋敷の復元ではなく現代建築であるというコンセプトで設計されている。

永井委員
委員長

大手前の一等地なので景観も考えてほしい。
メインは将来あるかもしれない復元の建物や遺跡であって、このような施設は特色をなくして景観に溶け込ませるべき。落ち着いた感じに抑えて、本来屋敷林の中に埋もれているようなイメージなので、植栽も併せて考えていくことで自己主張しすぎなくなる。機能的には非常に重要な役割を果たす建物だが、景観の上で主役になる必要はない。いろいろと意見があったがそれらも踏まえてよりいい形で実施設計を進めるとよい。

公園課

今後外構部分の設計を行う際に今いただいたご意見を反映させるようにしたい。

深澤委員
委員長

大橋と大手門、復元するとなると、バランスを考えたほうが良い。
大手門の復元が目標に入っているということを念頭に置いて全体のバランスを考えてもらいたい。

籠橋委員

7番の展示の概要の「森と杜」についてよくまとめているが、ひとつ指摘させてもらおう。説明文の中に東側に町人の町が形成されたとあるが、東側全部が町人町ではなく、ほとんどが武家町である。杜の都の「杜」は武家町の杜である。説明文では町人町の杜と武家町の森になってしまい、歴史的事実に反してしまう。検討してほしい。

永井委員
公園課

「オモテ林」とあるが、実在するのか。
「オモテ林」は今回の設計の中の造語である。御裏林からインスパイアされた。

永井委員
委員長

御裏林をもじって「オモテ林」、紛らわしい気がする。
それぞれの家が意図的に樹種を選んで植えたという記録もあるので、それらをもとに北側の森では、屋敷林の樹種を中心に、庭園のほうは御裏林の自然の樹種を中心にとしっかり分けてやるには大変だが、名前も含めて検討してほしい。

4. 整備基本計画の策定について

資料4に基づき事務局より説明

(質疑応答)

委員長

文化庁の指導もあり、整備基本計画のスケジュールが変わる。基本的な枠組みを、この10年間で何を残すのかという点を議論している。

永井委員

造酒屋敷を政宗が榎森家に屋敷を与えたというのはどういった資料に載って

いるのか。

事務局

榎森家の6代当主、18世紀前半にいた方が自分の家の由来等をまとめた文書がある。

永井委員

では、屋敷全体を榎森家がもらったものと解釈してよいのか。

事務局

政宗期から屋敷をもらっていたのかは確証が持てないところである。

永井委員

江戸時代は住んでいたのか。

事務局

明治9年まで住んでいた。発掘調査で屋敷跡など見つかっているが、上層で検出した遺構は18世紀終わりか19世紀前半と考えている。さらに古い遺構はその下に残っていると思うが上の遺構をはずすわけにはいかないため、古い遺構については確認しきれていない。

永井委員

立派な書院建物なども榎森家が管理していたのか。

事務局

大正年間に出た「伊達家史叢談」という本に付図していた建物配置図があるのだが、榎森家のご子孫が所持していたことから榎森家の建物の図として伝わってきたものである。

深澤委員

仙台城というものは仙台市にとって本質的に、存在自体が価値を持つものである。今回挙げられた石垣や、政宗らしさなどの5つの具体的な本質的価値の他に、「仙台市として仙台城跡を維持する意味」という精神的な部分も加えてはいかがか。

事務局

今回の5つ挙げた本質的価値は文化庁が示している「本質的価値とは、学術的歴史的価値である」という定義をもとにまとめた。しかし、今後これを基に基本理念、整備計画基本理念や基本方針というところで、本質的価値をどのように活用していくのかという議論が出てくる。その際に検討させていただく。

5. 台風19号による仙台城跡の被害報告

資料5に基づき事務局より説明

(質疑応答)

委員長

今後文化庁と協議しながら復旧等どうするかを相談していくことになる。写真4の清水門の礎石下がえぐれているというのが土嚢で仮に抑えてあったのが幸いした。

6. その他

事務局

それでは最後にオブザーバーとして同席いただいた宮城県文化財課から一言いただきたい。

宮城県

今日の委員会は、とても盛りだくさんの内容で、活発な意見がなされたため、有意義な会となった。調査に関しては、年代や性格等、これからずっと継続して調査してきているが、これからもっと詰めていかななくてはならない。今回の意見

を参考に今後の調査を検討してほしい。活用や整備に関しては、県でも多賀城の整備活用を考えている中で参考にしたい点が多かった。活用事業についても、市民参加などのキーワードや、職場体験などを通して将来的に文化財に寄り添っていける素地を育むべきであるなど非常に大切な意見も出された。他にも大学との協働やボランティアの育成なども大切な意見である。整備状況についても景観との調和など様々なコンセプトがあるのではないかと思った。こういった有意義な会をこれからも継続してほしい。

【閉会】